地域主体の実践的都市計画の推進者・田村明さん逝く

横浜市都市整備局上席調査エグゼクティブアーバンデザイナー
横浜市立大学特別契約教授
国吉直行

（撮影・森日出夫氏）

地域・都市プランナーとして，1960年代末以降，横浜市を舞台として，自治体の主体的活動としての実践的都市計画を実践し，日本の都市計画の改革者であった，本学会名誉会員である田村明（たむらあきら）さんが，2010年1月25日，逝去されました。享年83歳でした。2001年には本学会功績賞を受賞されています。

●政府機関から，民間企業，民間プランナー，自治体プランナーへ

田村さんは，1926年（大正15年），東京市赤坂区青山高樹町に生まれ，旧制東京都立一中（現日比谷高校），旧制静岡高校を経て，東大に入学し，7年間で，工学部建築学科，法学部法律学科，法学部第三類〔政治コース〕の3つの学科を卒業されています。

大学卒業後は，1年あまりの間に，運輸省大臣官房観光部計画課など数箇所に在籍した後，国を辞め，民間会社に移られています。

移った先は，日本生命本店不動産部で，約8年在籍し，不動産課次長を務めています。この時，不動産鑑定士を取得されたようです。

その後，都市計画家で建築家の浅田孝さんが，1959年に設立した民間の都市計画コンサルタントである環境開発センターに1963年に入社しています。浅田孝さんは，丹下健三氏の設計チームで右腕的存在として活躍し，また，後に，建築家・デザイナーグループ「メタボリズム」を結成された方です。

環境開発センター時代に，都市プランナー田村明の下地が出来たと思われます。また，浅田さんとともに大阪万国博初期マスタープランを手がけたことから，万国博を主導したメタボリズムグループの建築家・デザイナーとのネットワークも深まったようです。

その後，飛鳥田一雄横浜市長から環境開発センターへ，横浜市の都市づくり計画の依頼があり，田村さんが担当し，後に六大事業と称されることになる計画案などを提案しました。そして，飛鳥田市長にその計画案実現のため市へ入ることを請われ，1968（昭和43）年に，環境開発センターを辞して，横浜市に入庁しました。

●実践的都市づくりの組織ー横浜市企画調整局の活動

当時の横浜市は，開港以来港湾経済都市として発展してきた都心部が第2次大戦後の米軍接収により復興が遅れていました。また，郊外丘陵部は東京勤務者のための住宅地として無秩序な開発が始まり，人口急増，道路，公園，学校などの緊急整備など多くの課題を抱え始めていました。田村さんは，こういった状態を脱し，都市としての自立を目指すための計画を提案し実現しようとしました。

横浜市での最初の工夫は計画推進組織としての企画調整局（当初は室）の設置でした。この新組織は市の抱えている多くの課題解決を，各局事業に対しての技術面の裏づけも持って総合的に調整しながら，実現可能な魅力ある計画として組み立て，計画を実現するための組織でした。いわゆるタテ割り組織をヨコにつなぐ総合的機調整機能を持つ実践的組織であり，田村さんは，企画調整局長として計画推進活動に辣腕を発揮しました。

●都市づくりの取り組みは3つの側面から

企画調整局の活動の1つ目は，「プロジェクトー公的事業のプロデュース」。2つ目は，「コントロールー様々な開発に対する適切な規制と誘導」。3つ目は，「都市デザインー都市空間の質の向上と個性の形成」でした。

プロジェクトは，都心部強化事業，港北ニュータウン整備事業，金沢地先埋め立て事業，高速道路の整備，地下鉄の整備，ベイブリッジの整備からなる六大事業として発表されました。そのうち，都心部強化事業は，横浜駅周辺と関内周辺地区の二つに分かれた都心部の間に位置する造船所や鉄道ヤードなどに移転してもらい，その跡に新しい都心業務・商業地区などを形成し，1つの大きな都心を再構築する，現在のみなとみらい21地区を誕生させる構想でした。

また，これら全てを市の事業として実施するのでなく，横浜市の理念に沿ってもらうように調整誘導プロデュースしながら，国や公団などに出来るだけやっていただくことでした。

コントロールでは，総合的土地利用計画と開発コントロールの対策を立案。郊外部の緑地の乱開発の防止と，良好な住宅地の形成を誘導するための様々な施策などを進めました。具体的には，市街地の約25%を市街化調整区域に指定しました。また，横浜市独自の宅地開発要綱を定め，良好な住宅地の形成にも成功しています。

都市デザインでは，ボストン市アーバンデザインチームでの活動体験のある岩崎駿介氏に筆者が加わり，2名による都市デザイン専門家チームを1971年に発足させ，楽しく歩ける歩行者空間や広場づくり，整った町並み形成，歴史を生かしたまちづくりなどによる個性ある都市空間づくりを開始しました。チーム発足前にも，田村さん御自身により，都心部・関内デルタの高速道路の高架構造計画案を建設省と交渉し，ルート変更や地下化してもらうなどの大きな成果を挙げています。この時の田村さんの建設省との闘いは，多くの著書で紹介されています。

都市づくりを進めるに際して，この3つの活動を横浜市独自の理念に沿って，効果的に連動させ，成果を築いて行ったのも特徴です。田村さんの元で，部長から職員まで全員が約2畳の大きさの製図版を囲み，各チームの取り組みを互いに認識しあう「大テーブル主義」と言われた会議が頻繁に行われました。

●自治体として独自の視点を大切にして主体的に取り組む

1973（昭和48）年の都市計画法改正に伴う作業では，多くの都市が国の指導も受け，中心市街地の高度制限を撤廃したのに対し，横浜市では31mの高さ制限を維持し，建築計画の際の効果的な歩行者空間や広場づくり（公開空地提供）など公的貢献度に応じての緩和を行うこととしました。国の総合設計制度をそのまま採用せずに，横浜市として使いやすい独自の市街地環境設計制度を策定しました。横浜市は，こういったコントロール手段を，都市デザイン的視点から，効果的運用を図り，地区毎の魅力向上を進めました。

筆者は，早大大学院生時代の1970年頃に，雑誌「新建築」において，「第3の建築家」の表題で，浅田孝さんと田村明さんが紹介されていた記事を強く記憶しています。1970年に，田村さんの構想など知らない筆者は建築学会関東支部事業委員として，三菱造船所地区を再開発する計画提案の競技設計を企画し，横浜市を訪れ田村明さんと折衝しました。そして，これがきっかけとなり，翌年5月に横浜市に嘱託として入庁し，都市デザインチームの結成に加わりました。以来，約10年間，田村さんの企画調整局での実践を通じ，様々な都市戦略や田村さんが「非定型流動型」とよく話された柔軟で実践的な対応などを勉強させていただきました。私自身は現在，横浜の都市デザイン活動40年目を迎えています。

●市長交代により横浜市での活動継続を断念し大学へ

70年代中頃，多くの構想が実現し始めました。しかし，田村さんの横浜での活動開始後10年目の1978（昭和53）年，田村さんをスカウトした飛鳥田市長が急遽辞任し，社会党委員長に転じ，そして，元自治事務次官の細郷道一氏が新市長となりました。

細郷新市長誕生後，飛鳥田市長のブレーンと呼ばれた田村さんの横浜市役所での活動継続は難しくなり，1981年に法政大学教授へ転じました。田村さんが横浜市を離れた後ですが，田村さんの多くの構想や制度，仕組みは生き続け，それまでに田村さんが育てた多くの市職員により，みなとみらい21はじめ六大事業は発展しました。私の所属していた都市デザインチームも，1982年に都市デザイン室に発展し，次々に新たな成果を築きました。

昨年12月22日に田村さんに先立ち56歳で急逝した北沢猛さん（東大教授）は，1977年に横浜市に入り，都市デザインチームに所属し，私の弟分的存在でした。田村さんと北沢さんの横浜市での接点は田村さんが市を去る前の4年間だけでしたが，六大事業など田村さんの挑戦的な提案姿勢に強いインパクトを受けたようです。北沢さんは東大に転出した後，田村さん時代の横浜の活動を検証して博士論文をまとめたほか，昨年，50年後の横浜への新たな提案（「インナーハーバー構想」を検討する）など，田村さんの活動を目標としていました。

●生涯まちづくり啓蒙家

「要約すれば，飛鳥田市政の『まちづくり』は，これまで国の法令と指示に従うばかりで①受動的，②官僚的③バラバラ縦割り，④画一的，⑤固定マニュアル遵守，⑥硬直的だった自治体を，①主体的，②市民的，③総合的，④個性的，⑤創造的，⑥経営的，へ転換した。それは，さまざまな形で，日本全国の『まちづくり』の中に生かされ継続している。」（田村明　2002,1　月刊地方自治職員研修）

1981年以降，田村さんは，法政大学教授，早稲田大学客員教授などを務め，学生や，自治体職員，市民活動家などを育てることに精力を注ぎました。また，主体的な自治体まちづくりの重要さを訴え，各地に助言しました。横浜市役所まちづくり研究会，自治体学会，まちづくり学会，田村明まちづくり塾（東京，横浜，日本の未来をつくる会）などの設立や運営にも情熱を注がれました。

昨年12月には，病の身を押して，筆者の担当する横浜・北仲スクール（連携大学院）での都市デザイン講座で，企画調整局発足時の状況について2時間以上の熱い講演をしていていただき，最後まで，市民や自治体による地域主体のまちづくりを説き続けました。

私も含め，全国に数え切れないほどの，田村さんのまちづくりの弟子が育てられました。私たちは，田村さんの実践された地域主体の，独自性のある，人間性豊かなまちづくりの重要性を再認識し，田村さんの姿勢を踏襲し，挑戦をし続けたいと思います。

参考図書

「都市ヨコハマをつくる－実践的まちづくり手法」（中公新書）
「都市プランナー田村明の闘い－横浜“市民の政府”をめざして」（学芸出版社）
「東京っ子の原風景－柿の実る家の昭和史」（公人社）